

(別紙5)

補助事業番号 27-4-007  
補助事業名 平成27年度 被災者や被災地域が行う復興活動 補助事業  
補助事業者名 特定非営利活動法人 アーバンデザイン研究体

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

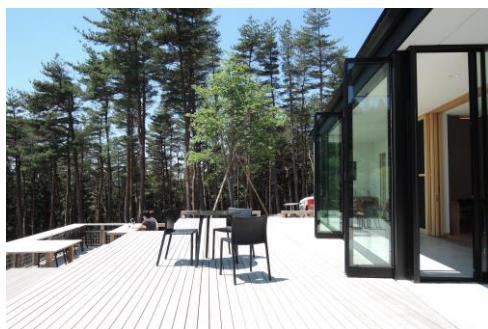
本事業は、被災跡地利用の方針を踏まえ、住民組織である復興まちづくり委員会を中心として、市や大学等と連携し、豊かな海・山の資源を活かしたもてなし・生業づくりなどに関する学習、中高大学生等の参加による実験的事業等を通じてその実現化の道筋を明らかにする。この活動を通じて、中高大学生や専門家等との縁を深め、協働体としての連携を強化し、地域の価値と魅力を高める自主的な地域経営・運営一泊エリアマネジメントの礎を築くことを目的とする。また、他の被災地区に寄与するため、その活動を概要報告書等にまとめ、広く情報を発信する。

(2) 実施内容

①被災跡地におけるもてなし・生業づくりの学習支援

[\(http://udmovement.exblog.jp/\)](http://udmovement.exblog.jp/)

- ・もてなし・生業づくりの活動拠点となる結っ小屋の環境整備と運営等の学習のため、周辺のカキ小屋や箱根山テラス等の視察を実施するとともに、実証実験として、ホタテ等の養殖の現場見学と釣り体験を実施し、もてなし・サービスのあり方について講師を交えて意見交換を行った。



△箱根山テラスのウッドデッキ



△実証実験 - 養殖見学と釣り体験

②イベント等の実験的事業を通じた検討の支援 [\(http://udmovement.exblog.jp/\)](http://udmovement.exblog.jp/)

- ・結っ小屋を被災跡地利用の活動拠点とするために、夏と秋のイベント等に併せて、ウッドデッキや調理施設、テーブルと椅子等を整備した。
- ・夏のイベントとして、開智学園と芝浦工業大学柏中学高等学校の中高生等が参加

(別紙5)

し、「泊食の逸品づくりと窯づくり」と「泊いいとこマップづくり」、さらに秋のイベントとして、「泊・食まつり」を開催した。



△ウッドデッキの製作



△ピザ窯・BBQの調理施設の整備



△夏のイベント 泊食の逸品づくり



△泊いいとこマップづくり



△秋のイベント 泊・食まつり



③復興まちづくり委員会のエリアマネジメント検討の支援

(<http://udmovement.exblog.jp/>)

- ・泊区復興まちづくり会議における年間の検討プログラムをはじめ、会議の企画提案、検討資料などの提供、進行・記録等の運営支援を実施した。
- ・視察等を踏まえ、結っ小屋の機能や環境整備、もてなし・生業づくり等を検討し、イベント等に向けた諸調整を実施した。



△泊区復興まちづくり会議の様子

④市や越喜来復興委員会等との協議・調整の支援 (<http://udmovement.exblog.jp/>)

- ・被災宅地(市有地)の活用の条件等について、市との協議を支援した。
- ・越喜来復興委員会の下部組織となる浦浜・泊地区復興まちづくり委員会にアドバイザーとして参加し、「緑の防潮堤」等の泊区の計画案の作成・調整、桜植樹の整地作業や浦・泊チャリティコンサートの共同事業に協力した。

⑤検討活動の記録—概要報告書の作成・配布 (<http://www.udmovement.com/>)

- ・今年度に進めてきた、被災跡地の再生と泊エリアマネジメントの実験的活動の内容とプロセスを「復興まちづくりの知恵袋」の「被災跡地利用計画編2」として作成・印刷し、大船渡市内外に配布した。

⑥発表・報告会の開催と情報発信 (<http://udmovement.exblog.jp/>)

- ・平成28年3月の第31回泊区復興まちづくり会議を発表・報告会として開催し、今年度の活動成果である概要報告書を示しながら、活動報告と来年度の活動方針を発表した。

2 予想される事業実施効果

今年度は、泊地区の持続可能な地域の実現に向けて、もてなし・生業づくりを軸に被災跡地の再生とエリアマネジメントの実験的活動を実施した。講習・視察等を通じて、拠点となる結っ小屋のウッドデッキ等の施設整備や海の利用も含めたもてなし・生業のサービスのあり方を学び、夏と秋のイベント等によりもてなし・生業を軸とするエリアマネジメントのイメージが地元と共有できた。こうした視察や実験的的事业等を通じて専門家や学生等との協働推進体制が強化され、先進地等との繋がりもできてきている。また、各実験的的事业等に際して、テレビや新聞により活動が報道され、高い評価も受け、住民の自信と確信を深める良い結果となった。あわせて、越喜来復興委員会の下部組織となる浦浜・泊地区まちづくり委員会との連携により、相互に被災跡地利用を促進する手立てや共同事業も展開している。このように先取的な泊地区の活動は住民と専門家、学生等との協働体を基本

(別紙5)

としてもなし・生業起こしから自主的な地域経営・運営 - エリアマネジメントの実現につながっていくと考える。そのためにも、さらに周辺地域との連携を強めながら、越喜来地域のブランド化等の広域連携復興につなげる必要があり、その可能性は高まっている。また、概要報告書は先取の試みとして他地区の参考になることが期待されるとともに、さらにテレビや新聞等を含めたプロモーション活動を強化することにより、このような広域の地域復興・振興と社会貢献に寄与していくと考える。

### 3 補助事業に係る成果物

#### (1) 補助事業により作成したもの

概要報告書 「復興まちづくりの知恵袋—被災跡地利用計画編2 (被災跡地の再生と泊エリアマネジメントの実験的活動)」 (<http://www.udmovement.com/>)



#### (2) (1) 以外で当事業において作成したもの

該当なし

### 4 事業内容についての問い合わせ先

団体名： 特定非営利活動法人 アーバンデザイン研究体 (トクテイヒエイリカ  
ツドウホウジン アーバンデザインケンキュウタイ)

住所： 〒151-0071  
東京都渋谷区本町3丁目4番4号

代表者： 理事長 杉本洋文 (スギモトヒロフミ)

担当部署： 事務局 (ジムキョク)

担当者名： 理事 金子哲也 (カネコテツヤ)

電話番号： 03-5333-6452

F A X： 03-5333-6453

E - m a i l： jimukyoku-mas@udmovement.com

U R L： <http://www.udmovement.com>